

令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立ゆいの杜小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 75人

② 算数 75人

5 留意事項

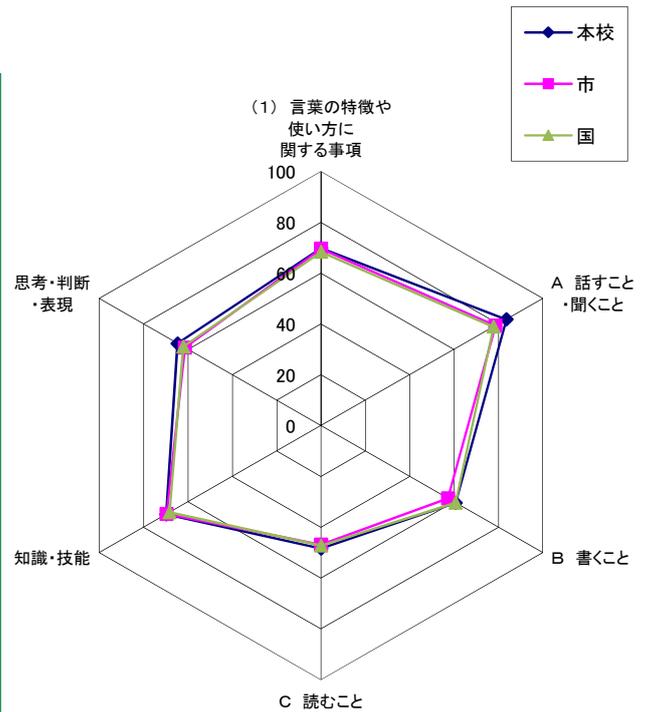
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立ゆいの杜小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	69.8	69.6	68.3
	(2) 情報の扱い方に関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	83.6	78.7	77.8
	B 書くこと	60.7	57.3	60.7
	C 読むこと	48.4	46.9	47.2
観点	知識・技能	69.8	69.6	68.3
	思考・判断・表現	64.7	61.4	62.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

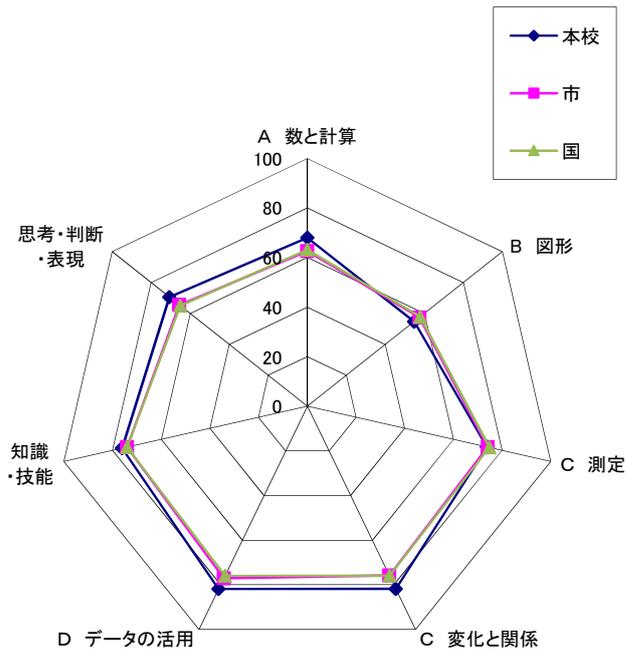
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	<p>平均正答率は、全国平均を上回った。</p> <p>○文の中における修飾と被修飾との関係を捉える問題では、全国の正答率を20.4ポイント上回った。</p> <p>●学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題②では、全国の正答率を17.1ポイント下回り、本校児童の無回答率が24%であった。</p>	<p>・漢字テストへの目標をもった取組や日々の反復練習を実践していくとともに、新出漢字のみならず既習漢字も日々のノートへの記入や作文での活用ができるようにする。</p> <p>・幅広い分野の読書を勧めたり、国語辞典や漢字辞典を日常的に利用させたりして、語彙力を広げるようにする。</p>
A 話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、全国平均を上回った。</p> <p>○目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える問題では、全国の正答率を11.8ポイント上回った。</p> <p>●資料を用いた目的を理解する問題では、全国の正答率を1.6ポイント下回った。</p>	<p>・資料を使って話すことはできるが、資料活用の根拠が明確でない児童もいるため、たくさんの資料から情報を選択し、活用できるような機会を多くもてるようにする。</p>
B 書くこと	<p>平均正答率は、市平均を上回った。</p> <p>○自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える問題では、全国の正答率を4.5ポイント上回った。</p> <p>●目的や意図に応じて、理由を明確にしながら自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題では、全国の正答率を4.6ポイント下回った。</p>	<p>・おおむね良好な結果ではあるが、目的や意図に応じ、自分の考えの根拠を明らかにして文章を整理する活動を取り入れていきたい。</p>
C 読むこと	<p>平均正答率は、全国平均を上回った。</p> <p>○文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事項を把握する問題では、全国の正答率を6.4ポイント上回った。</p> <p>●目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する問題では、全国の正答率を1.7ポイント下回った。</p>	<p>・おおむね良好な結果ではあるが、文中の大切な事柄に線を引いたり、文のつながりを考えたりしながら、筆者の意図や書かれている内容を正確に読み取れるように指導する。</p>

宇都宮市立ゆいの杜小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	68.0	62.6	63.1
	B 図形	54.7	57.5	57.9
	C 測定	73.8	74.1	74.8
	C 変化と関係	81.8	75.8	75.9
	D データの活用	81.9	77.1	76.0
観点	知識・技能	76.1	74.1	74.1
	思考・判断・表現	70.7	65.6	65.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>平均正答率は市平均と比べて5.4ポイント上回る。</p> <p>○8人に4Lのジュースを等しく分けるときの一人分のジュースの量を求める式と答えを書く問題の平均正答率は市平均と比べて9.0ポイント上回る。</p> <p>●30mを1としたとき12mが0.4にあたるわけを書く問題の正答率は低い。</p>	<p>・数値や場面を変えても同じような関係が成り立つか考えたり、理由を説明したりする活動を行い、数値の関係を言葉や式で表現できるようにする。</p>
B 図形	<p>平均正答率は市平均と比べて2.8ポイント下回る。</p> <p>○二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを書く問題の平均正答率は市平均と比べて6.7ポイント上回る。</p> <p>●直角三角形の面積を求める式と答えを書く問題の平均正答率は市平均と比べて10.5ポイント下回る。</p>	<p>・図形の性質を見出す力をさらに育むため、授業の中で図形の観察や構成、作図などの活動を意図的に増やして、図形の見方を考える。</p> <p>・三角形の面積を求める公式など基本的な図形の知識の定着を図り、それらをどのように生かして応用できるのか具体的な場面を取り上げるようにする。</p>
C 測定	<p>平均正答率は73.8%で市平均と同程度である。</p> <p>○二つのコースの道のりの差の求め方と答えを書く問題の平均正答率は市平均に比べ3.8ポイント上回る。</p> <p>●直角三角形を組み合わせた図形の面積についてわかることを選ぶ問題の平均正答率は市平均と比べて4.7ポイント下回る。</p>	<p>・広さや長さの概念を捉えられるようにするため、比較することを通して、実感を伴った理解を促す。</p>
C 変化と関係	<p>平均正答率は市平均と比べて6.0ポイント上回る。</p> <p>○速さを求める式の意味について正しいものを選ぶ問題の平均正答率は市平均と比べて8.8ポイント上回る。</p>	<p>・速さを求めるための知識の定着を図るため、道のりと時間、速さの関係や速さを求める除法の式と商の意味を理解できるよう指導する。</p>
D データの活用	<p>平均正答率は市平均と比べて4.8ポイント上回る。</p> <p>○帯グラフから割合の違いが、一番大きい項目を選び、その項目と割合を書く問題の平均正答率は市平均と比べて12.1ポイント上回る。</p> <p>●5年生と6年生の読みたい本と多くの5年生と6年生に読まれている本を調べるために適切なデータを選ぶ問題の平均正答率は市平均と比べて2.0ポイント下回る。</p>	<p>・表やグラフに対し、様々な観点からの問題を意図的に出すなど適切なデータを選択することができるような授業を展開する。</p>

宇都宮市立ゆいの杜小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分にはよいところがあると思う」と肯定的な回答をした児童の割合は、85.3%で、全国の割合76.9%を大きく上回っている。また「将来の夢や目標をもっている」に肯定的に回答した児童の割合は、84%で全国平均を4%上回っている。昨年まで実践していた、「夢いっぱいプロジェクト」で目標を立て、計画的に取り組み、目標を達成した後は、次の目標につなぐプロセスと、それを児童同士や教師が認め励ましてきた成果であると考えられる。今後も行事や学期のめあてを通して、達成感を高めていきたい。

○「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」に肯定的に答えた児童の割合は、90.7%で全国の78.2%を12ポイントも上回っている。また「5年生までに受けた授業で、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」に肯定的に回答した児童の割合は、70.7%とで全国平均63.5%を7.2ポイント上回っている。授業の中で、自分の考えをペアやグループ、全体などで交流する活動を通して、対話的な学びの力が身に付いたと思われる。引き続き、学習活動の中で、互いの意見を共有する場面を大切にしていきたい。

●「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強していますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」に1時間以上と答えた児童の割合は、58.7%と全国の平均62.5%を下回っている。高学年の学習時間は、60分以上を目安にしているが、日頃から時間を確保して取り組んでいる児童と、宿題のみで学習を終わらせている児童との開きが大きい。苦手な教科や間違えた問題を自主学習として取り組めるような例を提示するなどの工夫をしていきたい。

宇都宮市立ゆいの杜小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
豊かなかかわりを生かしながら、自主的に学習するようにするための工夫	グループや全体での話し合い活動を充実させる。その際、話し合いが具体的に進むようにヒントとなる教材を選定して提示したり、進んでできるように励ましの言葉をかける。 教科担任制を生かし、様々な教師が児童に関わることで、より豊かな学習が展開されるようにする。	「5年生までに受けた授業で、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考えを受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていましたか」という質問について、肯定的回答が82.7%あった。全国平均を上回っている。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	学年内で宿題の量や家庭学習のやり方について共通理解を図る。学級活動で家庭学習・自主学習のやり方を指導する。担任が自主学習ノートの内容や提出頻度を確認する。児童が互いの自主学習ノートを見せ合い、よいところを参考にしている話し合いを担任がリードして行う。	「自分で計画を立てて勉強していますか」の質問について、肯定的回答した児童は、77.3%であった。県の平均を下回っている。また、「学校の授業以外の、平日の学習時間」1時間以上が、58.7%であった。全国平均より下回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査において、漢字や言葉など基本的な知識や技能に関わる問題の中で全国平均よりも17ポイントも低い回答が見られた。	「漢字50問テスト」を活用し、テストに向けての予習、実施後の復習を図る。	年に3回「漢字50問」テストを行う。事前に実施日とテスト範囲を知らせ、合格点に達するまで繰り返し行うことで、既習漢字の定着を図れるようにする。